

会津駒ヶ岳山行報告

【山行日】2025年 7月 13(日) 晴れ
【集 合】栃木市運動公園P AM 3:00
【費 用】マイカー2台 : 3,200円
【メンバー】CL:鈴木、SL:廣瀬 飯野、
嶋田、田崎、根本、福島、藤原ト、吉田、渡邊カ
【コースタイム】栃木市運動公園P3:00＝
滝沢登山口 P5:20/5:40～水場 7:20/7:30～
駒の小屋 9:10/9:20～会津駒ヶ岳 9:40/9:50～
中門岳 10:10/10:20～駒の小屋 11:10/11:45～
水場 12:40/13:00～滝沢登山口 14:00/14:15＝
道の駅「尾瀬」14:25/14:45＝栃木市運動公園P17:10



7月の2つ目の山行は会津の名峰、会津駒ヶ岳を計画した。地球温暖化で年々猛暑が早くなり、ハクサンコザクラの花が見ごろになると思い1週間早く計画した。駐車場が上から満車になるので、



栃木市運動公園を3:00に出発する。東北道を北上し西那須野塩原 IC で降り、国道400号線から121号線、352号線を走り道の駅「尾瀬桧枝岐」に寄ってトイレを済ませる。すぐ先を右折し滝沢林道を進み、登山口駐車場に着く。一番奥の駐車場はすでに満車で、U ターンして戻り二つ下の駐車スペースに車を止める。出発の準備を整えてストレッチを行い、林道を辿ると終点に立派な木製の階段があり、ここから登り始める。

いきなりつらい急登が連続し、登り始めはゆっくりしたペースで登って行く。最初のベンチで休憩し、衣服調整と水分補給を行う。カラマツやミズナラの中を登り、さらに高度が上がるとブナの原生林の中を登るようになる。急登の連続にいささか疲れが出たところ、中間点の水場のベンチに着く。大勢の登山者が休憩しており、我々も空いているベンチに腰を下ろし休憩する。水場から少し登ると傾斜が緩くなり、シラビソやダケカンバの木が見られるようになる。さらに急斜面を登るようになり、田崎さんが足攣りで休憩しツムラの68番を飲んで様子を見る。中々回復しないので8名はSLの廣瀬さんにお願ひし、我輩と田崎さんは後からゆっくり登ることにする。やがて木道を歩くようになると湿原が現れ、明るく展望が開け会津駒ヶ岳が望める。湿原のベンチに着くと先行した8名が出発する所で、我々2人は駒の小屋で待つので皆さんは中門岳まで行くようお願いする。



ベンチでゆっくり休んで景色を楽しみ、足の痛みが治まったら出発する。ここから少し登ると池ノ平の傾斜湿原が広がり、階段状の木道を登るようになる。右前方に会津駒ヶ岳を見ながら、とても気持ち良く歩ける場所だ。少し登ると痛みが出る



ようで、休みながら1歩ずつゆっくり登って行く。駒の小屋下のベンチに着くと、皆さんは会津駒ヶ岳に向かって出発した後だった。ところがベンチに福島さんが居るではないか。どうしたのと聞くと、登る自信が無いのでここで待つことにしたとの事。ベンチとテーブルを一つ確保し、3人で皆さんが戻るのを待つことにした。皆さんは計画通り会津駒ヶ岳山頂に登頂し、北側の道を下って中門岳へと向かった。

本日のコースで一番のビューポイントは、ここから中門岳までの高層湿原の稜線歩きにある。360度の大大パノラマやお花畑を楽しみながら歩く、雲上のスカイラインが続いている。中門岳は池塘の畔に山頂標識とベンチがあり、池塘の向こうに雪の越後駒ヶ岳が聳える絶景を堪能できる。絶景を楽しみながらおやつをいただき、記念写真を撮ったら往路に戻る。会津駒ヶ岳は分岐を右に巻き道を進み、木道を滑らないよう気を付けて下ると駒の小屋に着く。無事皆さんが戻ってきて、ベンチでお湯を沸かしてランチをいただく。カップ麺やおにぎりにトマトやキュウリの漬物が出され、美味しくいただいた。ランチが済んだら下山開始し、皆さんをSLにお願いし水場で待つように伝えた。田崎さんと我輩は後からゆっくり下り、水場に着くと皆さんは水を汲みに行っていた。水汲みから戻ると「冷たくて美味しい水です」と嬉しそうに飲んでいた。ここからも2班に分かれて下山し、計画通りの時間に登山口に着いた。靴を履き替えたら車に乗り、道の駅「尾瀬桧枝岐」に寄ってトイレタイムとお買い物。さらに道の駅「たじま」にも寄って買い物したが、予定より早く栃木市運動公園に帰着した。

